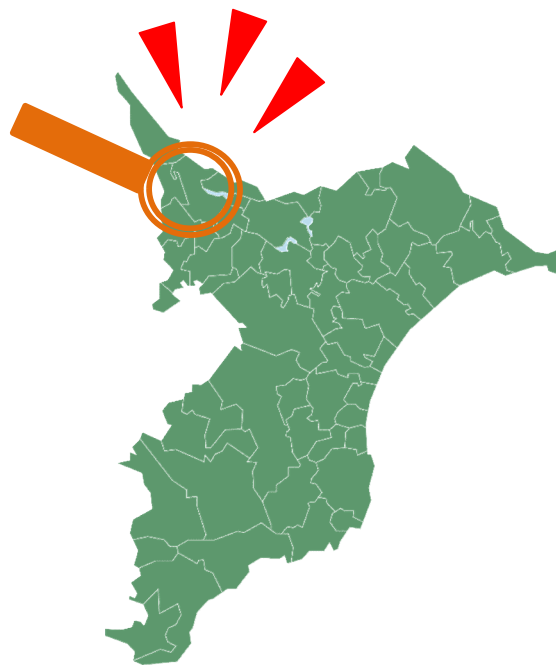


2024・7

柏の景気情報

令和6（2024）年7月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年7月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

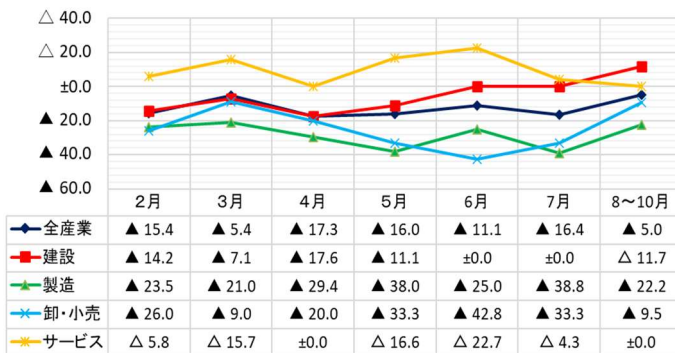
回答期間：令和6年7月22日～令和6年8月5日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数79

長期化する価格上昇はとどまるところを知らず。各業界、かかるコストに工面せざるを得ない。

7月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲16.4（前月水準▲11.1、1）となりマイナス幅が5.3ポイント拡大した。

各業界、長期化するコスト増・物価高等に経営問題は山積み。製造業では、未だに価格転嫁の動きは鈍く、今後も上昇する可能性がある仕入価格に不安の声が多数寄せられている。卸・小売業では、連日の酷暑により夏物関連の売行きは好調だが、値上げの影響が食物販は鈍化傾向。定額減税が始まって1カ月経つが、恩恵ありの声は少ない。

柏の景気情報・産業別業況DI



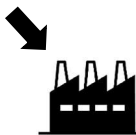
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「材料費などの物価上昇、国際情勢不安定化の懸念から、業況と採算ベースに不安がある。」（地質調査） 「今夏は、琉球畳で使用する七島いぐさの草履販売が好調」（畳工事請負・畳製造販売） 「再配達がおきないように、定休日を先方に伝えている。」（測量調査）



製造業

「昨年、欠員があったこともあり募集を掛けていたところ、ようやく採用することが出来た。最近の社員は、すぐに転職してしまうと周りの会社からよく聞く。今まで以上に教育に注力したい」（その他科学工業） 「原材料・エネルギー・労務費すべて未だに価格転嫁が上手く出来ていない状況で、輸送費上昇があると更に厳しい状況になる。業界の動きを見ても余り価格転嫁に積極的でない状況。競争と協調が上手く行かないと、業界全体が共倒れになる可能性がある。」（自動車・同付属品製造） 「価格転嫁円滑化パッケージ」なるものが動いている為、今後も仕入価格は際限なく上昇することが予想されるのが懸念材料」（その他の機械・同部品製造）



卸・小売

「気温の高い日が続く、夏物衣料関連は動向が良い。食品も涼味関連は好調。コメが不足してきており品揃えは少なくなっているが、お客様が慌てている様子はない。」（大型小売店） 「短い梅雨による天候で来店客数増、雑貨・サービス好調継続も、酷暑によるアパレル全般、値上げ等に影響の食物販が鈍化傾向。定額減税の効果見られず。」（百貨店）



サービス業

「様々な要因は有ると思いますが、単純に学力だけの教育が先行し、サービスにかかわるヒューマンスキルが著しく低下している印象を持つ。なので、やっても採算ベースまで上がらず苦しい」（専門料理店） 「海外旅行の申し込みが伸び悩んでいる、円安のイメージが大きい、国内旅行にシフトしている。相変わらずの人手不足に悩んでいる、一流企業なみの賃金と、休暇、福利厚生が提供できれば良いが中小零細には無理があり、厳しい状況は今後も続く。とても辛い。」（旅行）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲16.4に対し、「CCI-LOBO」が▲16.3で、柏のほうがマイナス幅が0.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.4	 ± 0.0	 ▲ 38.8	 ▲ 33.3	 4.3
CCI-LOBO	 ▲ 16.3	 ▲ 13.1	 ▲ 22.8	 ▲ 20.8	 ▲ 5.4
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 5.0	 ± 0.0	 ▲ 33.3	 ▲ 19.0	 26.0
CCI-LOBO	 ▲ 3.1	 ▲ 9.1	 ▲ 10.1	 ▲ 1.3	 8.4
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.3	 ▲ 5.8	 ▲ 27.7	 ▲ 19.0	 21.7
CCI-LOBO	 ▲ 21.0	 ▲ 22.6	 ▲ 18.0	 ▲ 19.3	 ▲ 11.0
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 62.0	 ▲ 35.2	 ▲ 83.3	 ▲ 76.1	 ▲ 52.1
CCI-LOBO	 ▲ 64.9	 ▲ 70.8	 ▲ 62.5	 ▲ 66.8	 ▲ 63.3
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.1	 35.2	 5.5	 ▲ 9.5	 30.4
CCI-LOBO	 22.0	 37.7	 12.1	 19.8	 26.4
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ± 0.0	 ± 0.0	 ▲ 11.1	 ▲ 9.5	 17.3
CCI-LOBO	 ▲ 12.2	 ▲ 7.0	 ▲ 13.9	 ▲ 18.3	 ▲ 11.2

CCI-LOBO

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：2024年7月16日～22日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、消費低迷の中、コスト増継続で横ばい

先行きは、消費拡大の見通し立たず、慎重な見方

7月の全産業合計の業況DIは、▲16.3と前月比からマイナス0.1ポイント。

製造業は、物価高により企業の設備投資意欲に弱さが見え、機械器具関係を中心に悪化した。小売業・サービス業は、堅調なインバウンド需要が下支えするものの、長引く物価高による消費者の購買意欲の低下で力強さを欠いている。また、卸売業でも日用品や飲食関係の需要減で弱含みとなっている。建設業では、公共工事の下支えで改善を示すも、人手不足やコスト増等の重荷は継続している。

原材料価格が高止まりする中、激変緩和措置の終了や円安基調で、コスト負担増は

継続している。また、日経平均株価は最高値は記録したものの、中小企業は価格転嫁等で恩恵を十分に享受できておらず、業況は足踏み状態となった。

先行き見通しDIは、▲15.4と今月比からプラス0.9ポイント

定額減税や酷暑乗り切り緊急支援等による可処分所得の増加に加え、夏休み需要やイベント等による個人消費の拡大が期待されている。

一方、長引く物価高で購買意欲が低迷する中、輸送費や人件費の上昇、電気代の高騰、コスト増は続いている。価格転嫁や人材確保等の課題も山積みする中、抜本的な消費拡大の見通しは立たず、先行きは慎重な見方が続く。

【建設業】

「資材価格の高騰が続いており、受注時の設計単価の実際の工事単価に乖離が来ている。自治体の中には、公共工事での価格スライド

に柔軟に対応してくれているところもあり、こうした流れが全国に普及してほしい」（一般工事業）

「資材価格の高止まりする中、時間外労働の上限規制による働き手の増員で人件費も増加している。工事価格への転嫁は追い付いていない。」（舗装工事業）

【製造業】

「円安による仕入価格の高騰や電気代の上昇によるコスト増が収益を圧迫している。価格転嫁に取り組んでいるが、物価上昇が断続的に発生しており、その都度対応するのが難しい。加えて、輸送費も値上がりし始め、対応方法を模索している。」（金属加工機械製造業）

「取引先の在庫調整による販売数の減少が続いている。秋以降は回復する見込みだが、確証はなく、先行きは不安定な状況である。」（通信機械具製造業）

【卸売業】

「コスト増が続いているた

め価格転嫁を行ったが、それに伴って販売店でも値上げを行ったため、消費者の買い控えが発生し、受注数が減少。結果的にも売上も伸びず、コスト増をカバーできない状況になっている。」（食料・飲料卸売業）

【小売業】

「物価高により、生活用品を始めとする様々な品目で購入点数は伸び悩んでいるが、販売単価は上昇しているため、売上は好調。今月は気温の高い日も多い中、政府の激変緩和措置も終了しており、電気代の上昇によるコスト増が負担となっている。」（百貨店）

「地域の夏祭りイベントでは、日頃は節約志向がみられる地域住民の消費が活発になり、当社も売上が伸びた」（衣料品小売業）

【サービス業】

「インバウンド需要もあり、

宿泊客は増加傾向にあるものの、時間外労働の上限規制は地域の路線バスや観光バスの運転手にも適用されるため、減便や廃便が増えており、総じてみると受注機会の損失に繋がっている」（宿泊業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

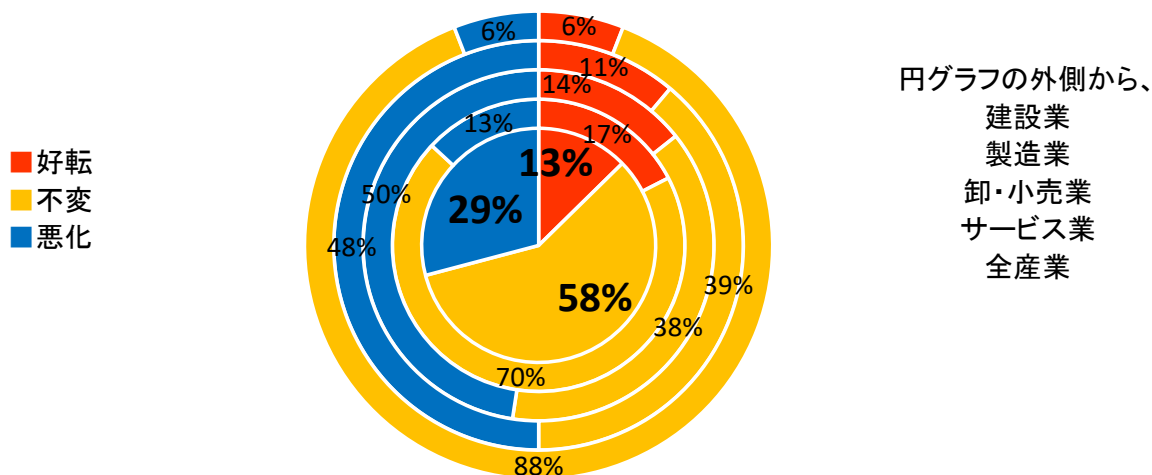
	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲12.9	▲13.0	▲17.0	▲19.2	▲14.4	▲4.4
3月	▲12.9	▲15.6	▲14.8	▲17.4	▲17.9	▲3.8
4月	▲14.0	▲16.5	▲21.7	▲16.6	▲16.5	▲2.4
5月	▲11.4	▲16.5	▲13.6	▲14.8	▲16.6	▲0.8
6月	▲16.2	▲18.7	▲17.6	▲23.3	▲22.2	▲6.0
7月	▲16.3	▲13.1	▲22.8	▲24.0	▲20.8	▲5.4
見通し	▲15.4	▲12.5	▲19.4	▲23.2	▲19.8	▲6.9

令和6年（2024年）7月の動向

【業況について】

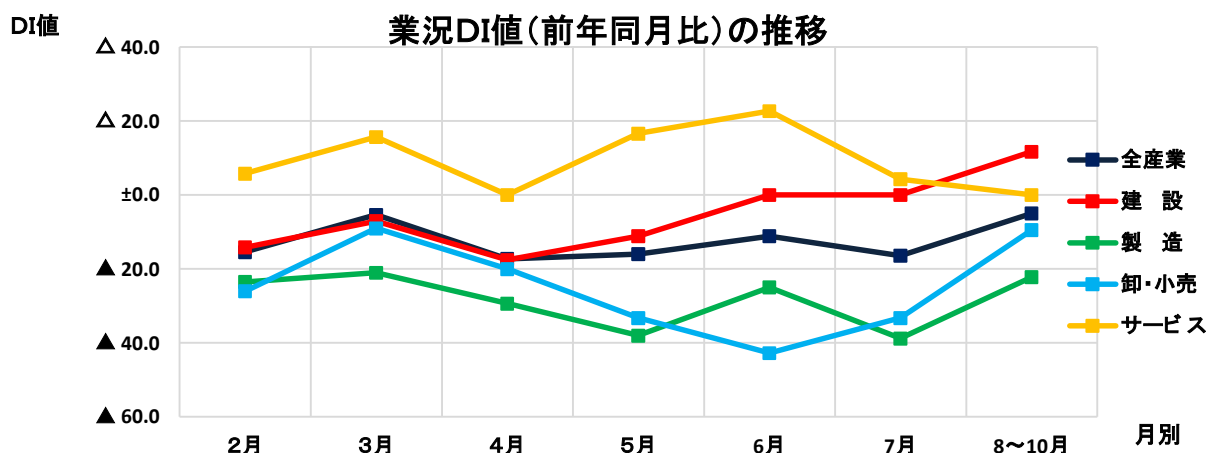
- 7月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲16.4（前月水準▲11.1）となり、マイナス幅が5.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（8月から10月）の先行き見通しについては、全産業では、▲5.0（前月水準▲7.4）となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。

前年同月と比較した今月の業況について



業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

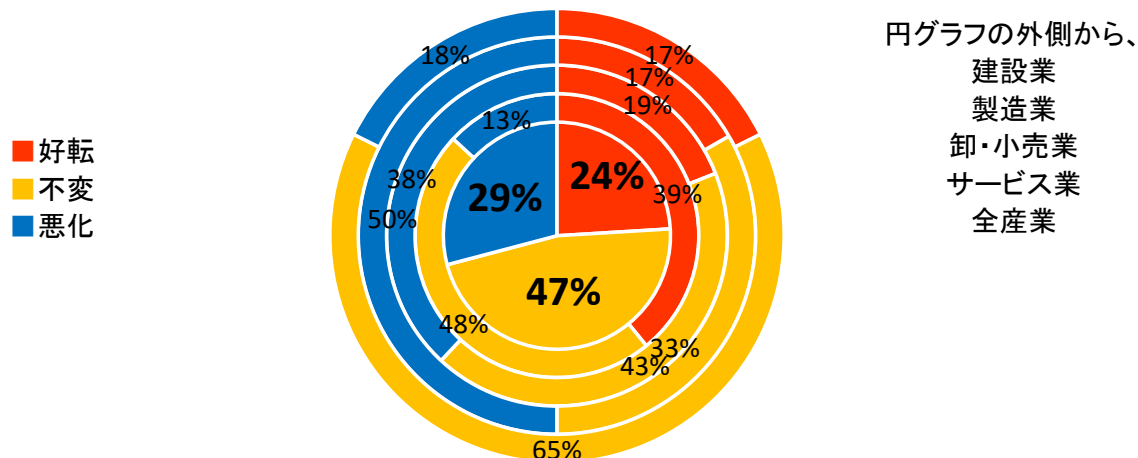
	令和6年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月（7~9月）
全産業	▲15.4	▲5.4	▲17.3	▲16.0	▲11.1	▲16.4	▲5.0（▲7.4）
建設	▲14.2	▲7.1	▲17.6	▲11.1	±0.0	±0.0	△11.7（△16.6）
製造	▲23.5	▲21.0	▲29.4	▲38.0	▲25.0	▲38.8	▲22.2（▲25.0）
卸・小売	▲26.0	▲9.0	▲20.0	▲33.3	▲42.8	▲33.3	▲9.5（▲38.0）
サービス	△5.8	△15.7	±0.0	△16.6	△22.7	△4.3	±0.0（△18.1）



【売上について】

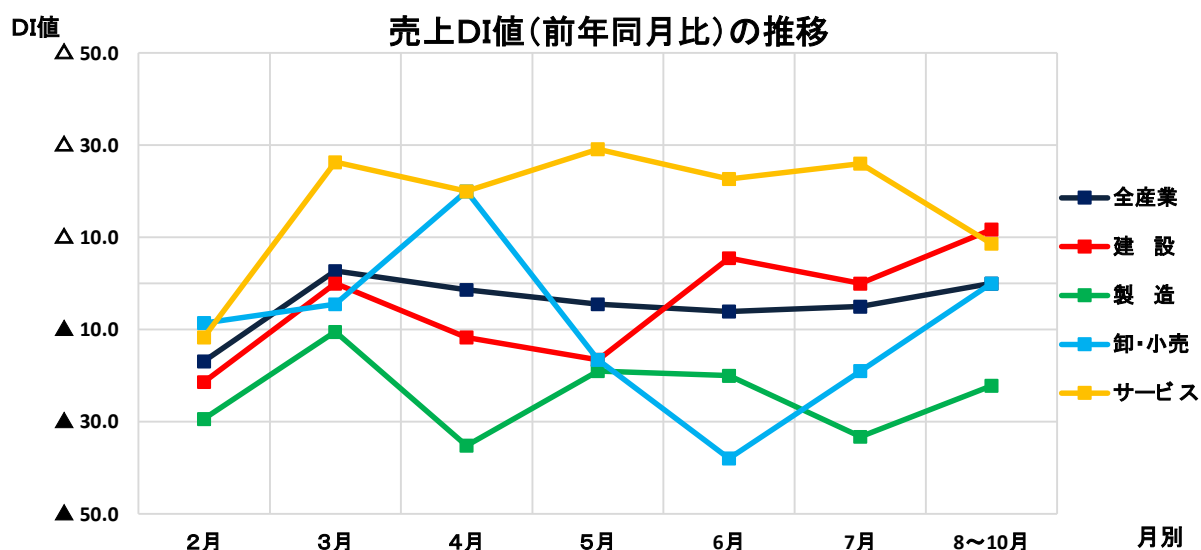
- 7月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.0 (前月水準▲6.1)となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、0・0 (前月水準▲3.7)となり、マイナス幅が3.7ポイント縮小した。

前年同月と比較した今月の売上について



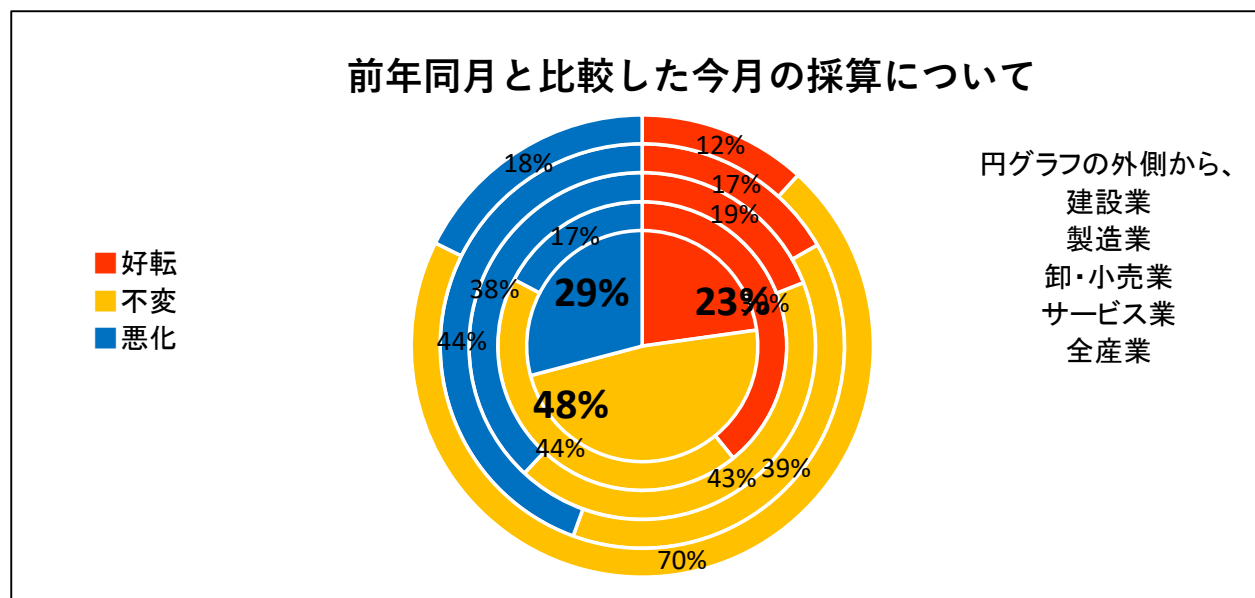
売上D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和6年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月 (7~9月)
全産業	▲16.9	△2.7	▲1.4	▲4.5	▲6.1	▲5.0	±0.0 (▲3.7)
建設	▲21.4	±0.0	▲11.7	▲16.6	△5.5	±0.0	△11.7 (±0.0)
製造	▲29.4	▲10.5	▲35.2	▲19.0	▲20.0	▲33.3	▲22.2 (▲20.0)
卸・小売	▲8.6	▲4.5	△20.0	▲16.6	▲38.0	▲19.0	±0.0 (▲19.0)
サービス	▲11.7	△26.3	△20.0	△29.1	△22.7	△26.0	△8.6 (△22.7)



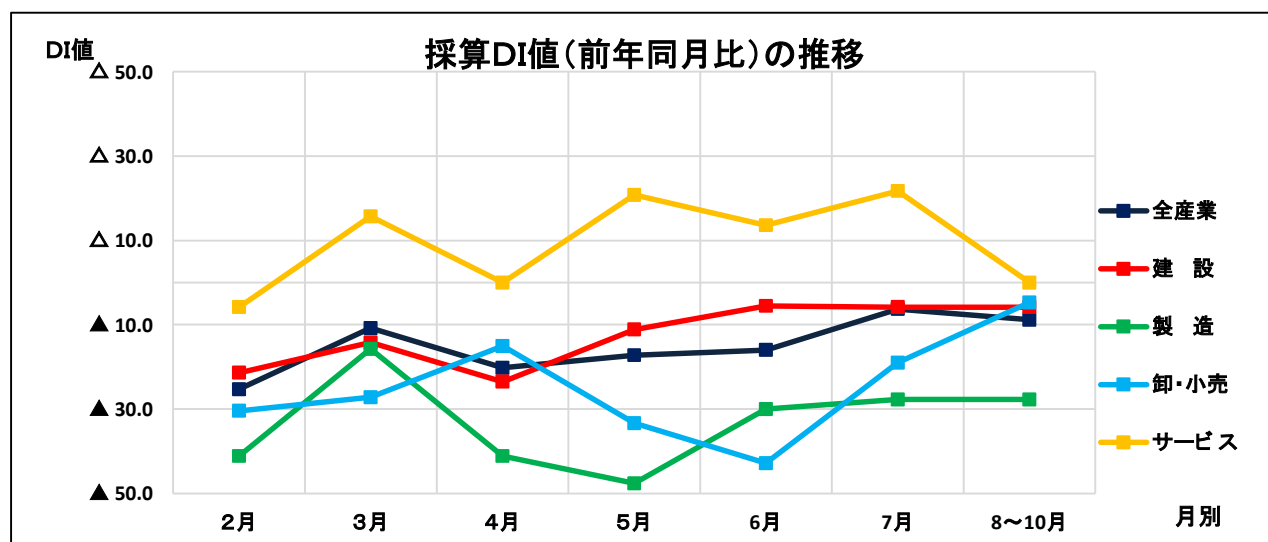
【採算について】

- 7月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.3(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が9.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.8(前月水準▲11.1)であり、マイナス幅が2.3ポイント縮小する見通しである。



採算D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月 (7~9月)
全産業	▲25.3	▲10.8	▲20.2	▲17.2	▲16.0	▲6.3	▲8.8 (▲11.1)
建設	▲21.4	▲14.2	▲23.5	▲11.1	▲5.5	▲5.8	▲5.8 (▲5.5)
製造	▲41.1	▲15.7	▲41.1	▲47.6	▲30.0	▲27.7	▲27.7 (▲20.0)
卸・小売	▲30.4	▲27.2	▲15.0	▲33.3	▲42.8	▲19.0	▲4.7 (▲28.5)
サービス	▲5.8	△15.7	±0.0	△20.8	△13.6	△21.7	±0.0 (△9.0)

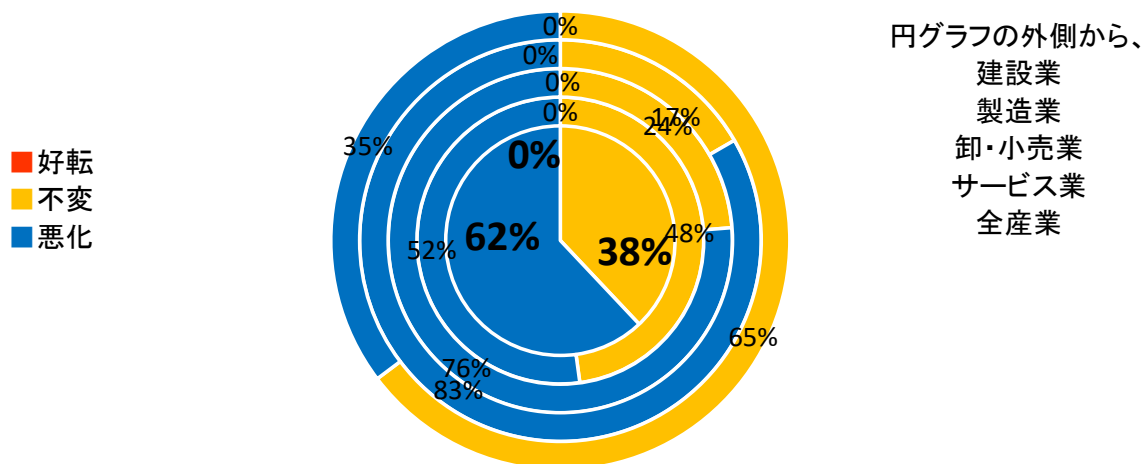


【仕入単価について】

○ 7月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.0 (前月水準▲64.1) となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。

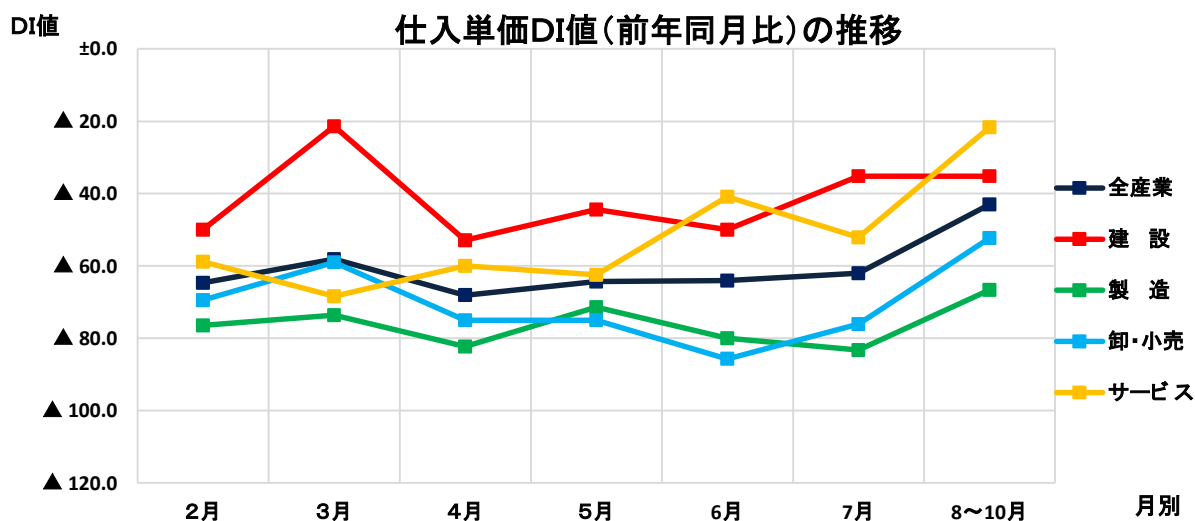
○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲43.0 (前月水準▲62.9) となり、マイナス幅が19.9ポイント縮小する見通しである。

前年同月と比較した今月の仕入単価について



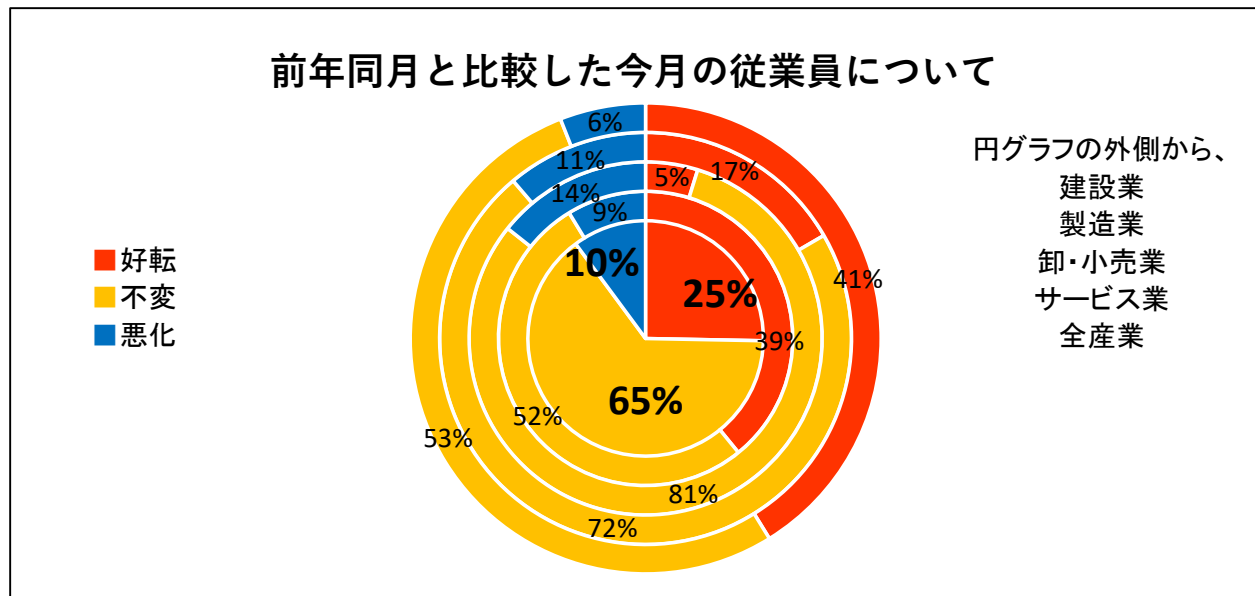
仕入単価D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和6年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月 (7~9月)
全産業	▲64.7	▲58.1	▲68.1	▲64.3	▲64.1	▲62.0	▲43.0 (▲62.9)
建設	▲50.0	▲21.4	▲52.9	▲44.4	▲50.0	▲35.2	▲35.2 (▲50.0)
製造	▲76.4	▲73.6	▲82.3	▲71.4	▲80.0	▲83.3	▲66.6 (▲75.0)
卸・小売	▲69.5	▲59.0	▲75.0	▲75.0	▲85.7	▲76.1	▲52.3 (▲76.1)
サービス	▲58.8	▲68.4	▲60.0	▲62.5	▲40.9	▲52.1	▲21.7 (▲50.0)



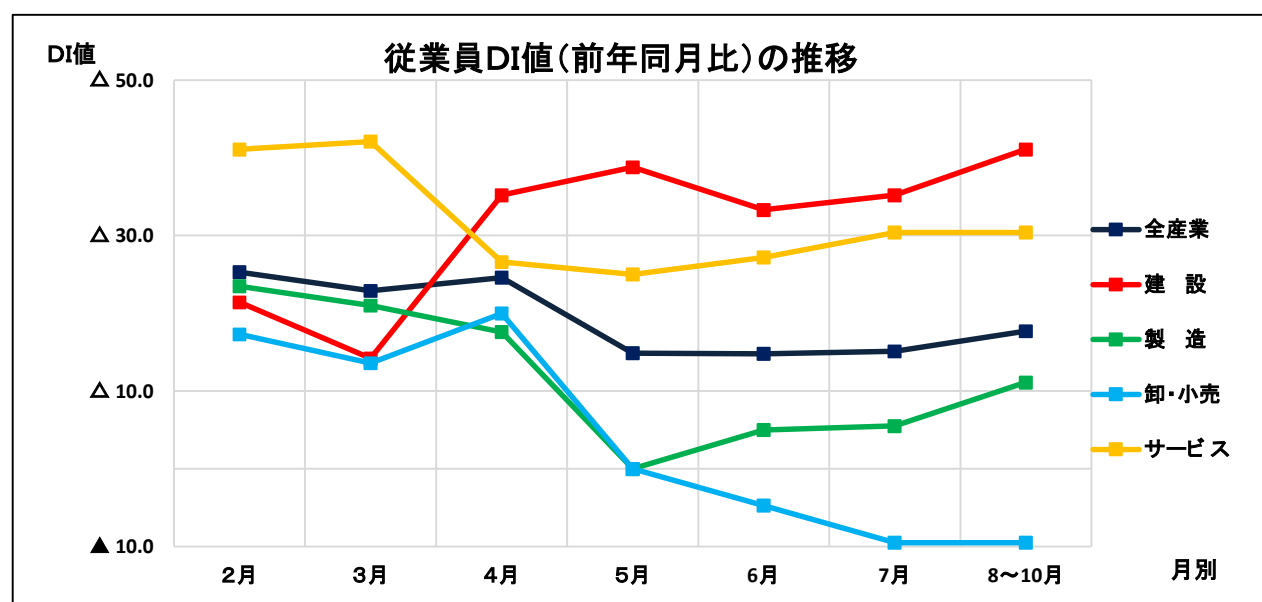
【従業員について】

- 7月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.1(前月水準△14.8)となり、プラス幅が0.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.7(前月水準△16.0)となり、プラス幅が1.7ポイント拡大する見通しである。



従業員D I 値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

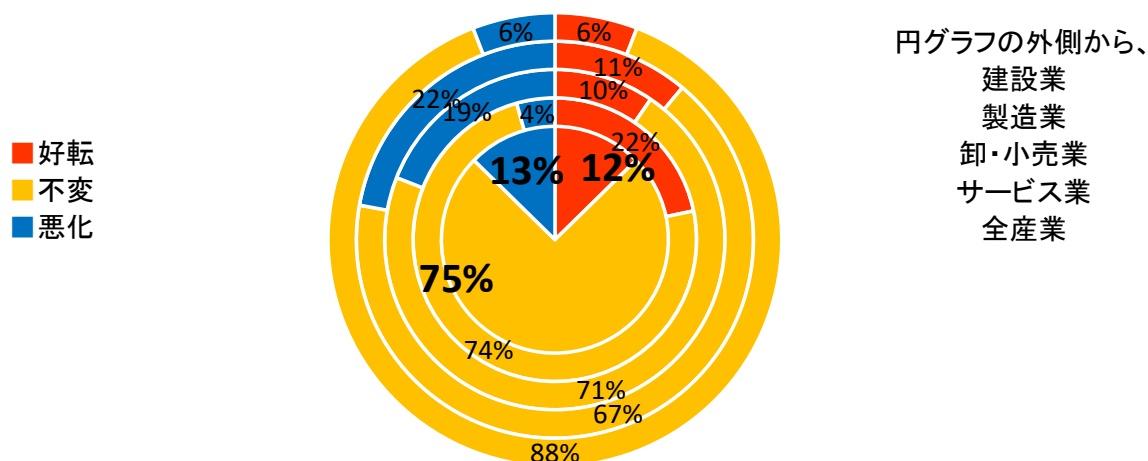
	令和6年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月 (7~9月)
全産業	△25.3	△22.9	△24.6	△14.9	△14.8	△15.1	△17.7 (△16.0)
建設	△21.4	△14.2	△35.2	△38.8	△33.3	△35.2	△41.1 (△38.8)
製造	△23.5	△21.0	△17.6	±0.0	△5.0	△5.5	△11.1 (△5.0)
卸・小売	△17.3	△13.6	△20.0	±0.0	▲4.7	▲9.5	▲9.5 (▲4.7)
サービス	△41.1	△42.1	△26.6	△25.0	△27.2	△30.4	△30.4 (△27.2)



【資金繰りについて】

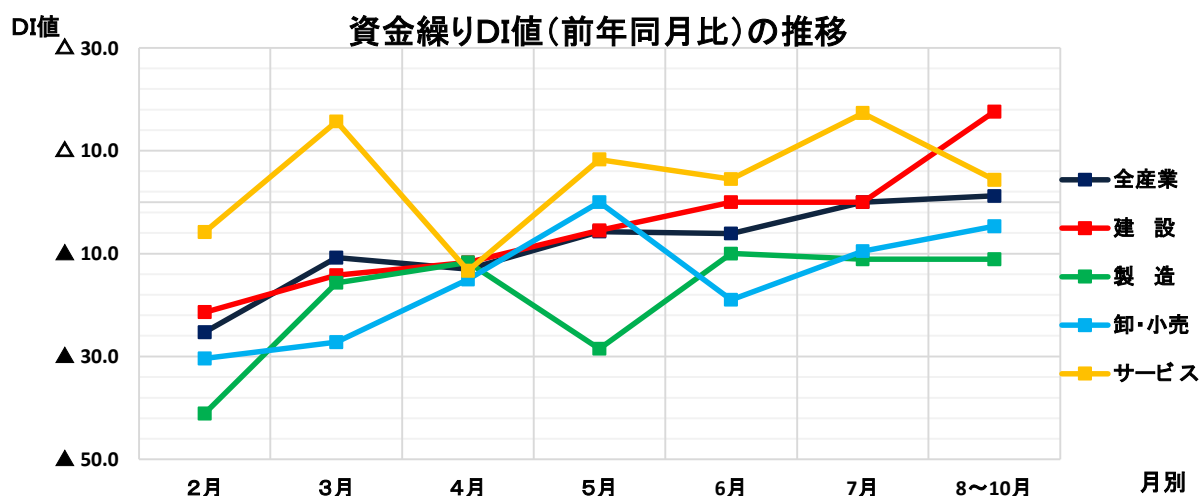
- 7月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、0.0(前月水準▲6.1)となり、マイナス幅が6.1ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、1.2(前月水準▲2.4)となり、プラス幅が3.6ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の資金繰りについて



資金繰りD I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月 (7~9月)
全産業	▲25.3	▲10.8	▲13.0	▲5.7	▲6.1	±0.0	△1.2 (▲2.4)
建設	▲21.4	▲14.2	▲11.7	▲5.5	±0.0	±0.0	△17.6 (△22.2)
製造	▲41.1	▲15.7	▲11.7	▲28.5	▲10.0	▲11.1	▲11.1 (▲20.0)
卸・小売	▲30.4	▲27.2	▲15.0	±0.0	▲19.0	▲9.5	▲4.7 (▲19.0)
サービス	▲5.8	△15.7	▲13.3	△8.3	△4.5	△17.3	△4.3 (△9.0)

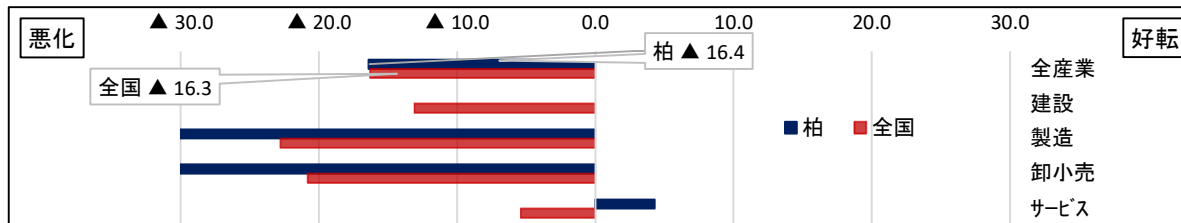


全国（CCI-LOBO）との比較

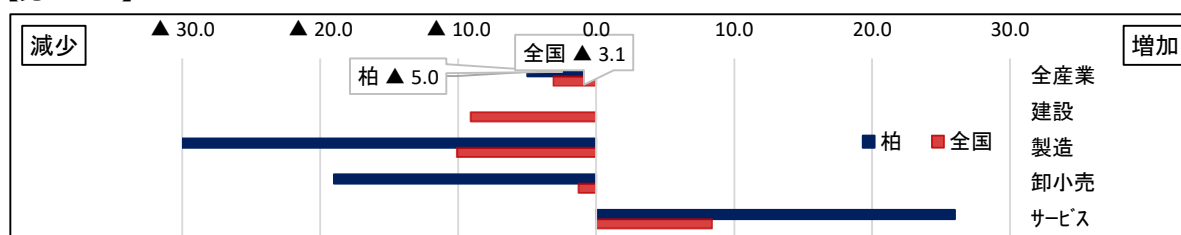
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

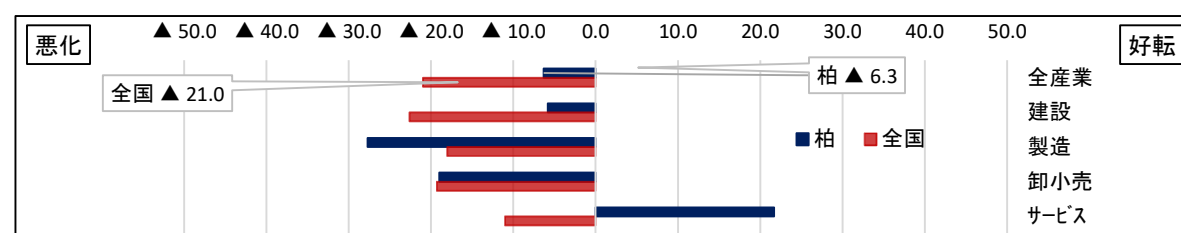
【業況DI】



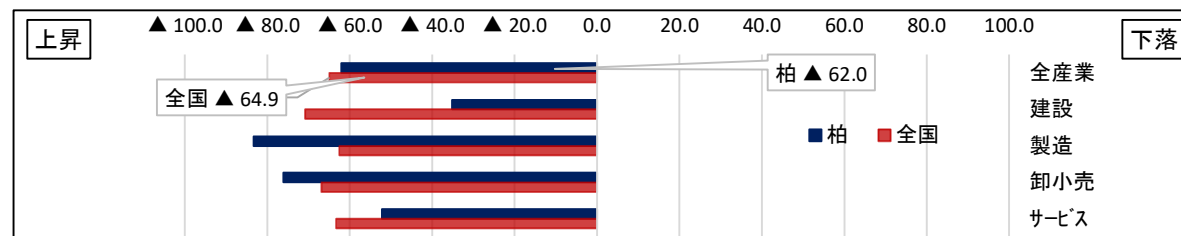
【売上DI】



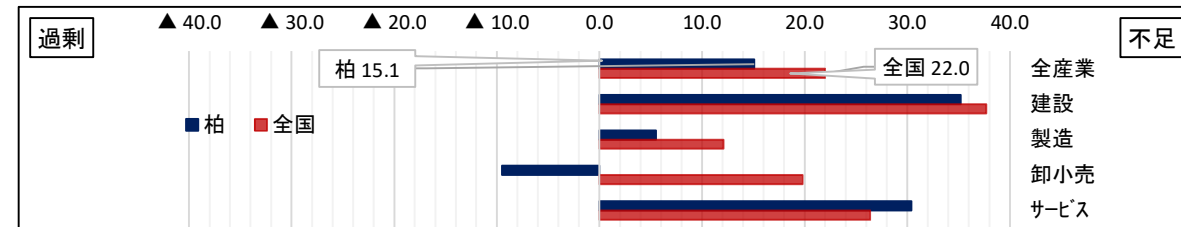
【採算DI】



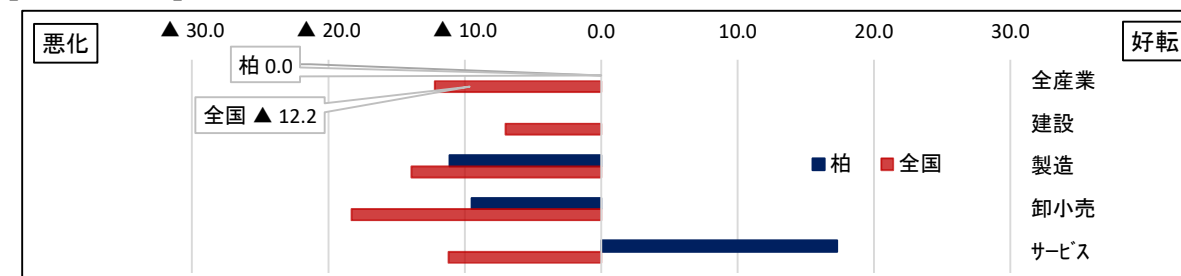
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	今夏は、琉球畳で使用する七島いぐさの草履販売が好調	畳工事請負・畳製造販売業
	再配達がおきないように、定休日を先方に伝えています	一般土木建築工事業
	人手不足なのに働き方改革？…。 残業して早く仕事を覚えて独立したいのに、出来ない。 ローンがあるので残業代を稼ぎたいのに、出来ない。 この暑さで生産性が上がらない。	測量調査
	材料費などの物価上昇、国際情勢不安定化の懸念から、業況と採算ベースに不安がある。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	医療品容器の受注開発とともに順調だが、化粧品容器に関して全く先が見込めない。化粧品の受注が回復しないと利益は出ない。	プラスチック加工
	「価格転嫁円滑化パッケージ」なるものが動いている為、今後も仕入価格は際限なく上昇することが予想されるのが懸念材料	その他の機械・同部品製造業
	昨年、欠員があったこともあり募集を掛けていたところ、ようやく採用することが出来た。最近の社員は、すぐに転職してしまうと周りの会社から非常によく聞く。今まで以上に教育に注力したい。	その他の化学工業
	原材料・エネルギー・労務費すべて未だに価格転嫁が上手く出来ていない状況で、輸送費上昇があると、更に厳しい状況になる。業界の動きを見てみても、余り価格転嫁に積極的でない状況。競争と協調が上手く行かないと、業界全体が共倒れになる可能性がある。	自動車・同附属品製造業
	属人的な仕事から誰でも代われる見える化された業務とするためにシステム構築中。世代交代とデジタル化を進めています。	金属製品
	気温の高い日が続き、夏物衣料関連は動向が良い。食品も涼味関連は好調。コメが不足してきており品揃えは少なくなっているが、お客様が慌てている様子はない。	大型小売店

【業種別】 業界内トピックス

卸・小売業	景況改善の要因ですが、顕在している外部要因と内部要因を認知できていません。長期間継続していることから、一時的な事象でないこと、偶然ではないこと、と捉えて探していますが、認知できていません。 人手不足でないこと。採用ができていないこと。教育研修ができていないこと。生産管理・予実管理ができていないこと。業績評価制度ができていないこと。デジタル化を進めていること。などが良い影響を及ぼしているのではないかと、推定して、因果関係を探っていますが、何ら見出すことができていません。	古紙卸売業
	・短い梅雨による天候で来店客数増、雑貨・サービス好調継続も、酷暑によるアパレル全般、値上げ等影響の食物販が鈍化傾向。 ・定額減税の効果見られず。	百貨店
	＊酷暑で客足が鈍るのは想定内だが、仕入れ値の上がり方は想定外。	その他の各種商品小売業
サービス業	原材料の上昇が続いており、利益圧迫している。コロナ感染者上昇による8月宴会客の減少の影響が心配。	日本料理
	海外旅行の申し込みが伸び悩んでいる、円安のイメージが大きい、国内旅行にシフトしている。 相変わらずの人手不足に悩んでいる、一流企業なみの賃金と、休暇、福利厚生が提供できれば良いが中小零細には無理があり、厳しい状況は今後も続く。あ～つらい	旅行
	様々な要因は有るかと思いますが、単純に学力だけの教育が先行しサービスにかかわるヒューマンスキルが著しく低下している印象を持つ。なので、やっても採算ベースまで上がらず苦しむ。	専門料理店
	6月後半ごろから新規入会の問い合わせが増えてきた。所得税減税の効果か。	学習塾
	暑さにより、顧客の来場は減っています。物件売却の依頼は増えていきます。市況としては、資料の高騰による建築費の値上げ、人件費の上昇による販売価額の値上げ等で、物の動きは、鈍いです。	不動産管理業
	消費税や法人税の中間納税をした。支払うと手元資金が会社に少々残る。毎月の納税積立は欠かせない。	不動産賃貸・管理業

調査要領

回答期間

令和6年7月22日 ～ 令和6年8月5日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	79	45.7%
建設	38	17	44.7%
製造	44	18	40.9%
卸・小売	46	21	45.7%
サービス	45	23	51.1%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 